



Firepower Threat Defense VPN の管理


- [Firepower Threat Defense のサイト間 VPN の管理 \(1 ページ\)](#)
- [Firepower Threat Defense サイト間 VPN の設定 \(2 ページ\)](#)
- [Firepower Threat Defense VPN のモニタリング \(11 ページ\)](#)

Firepower Threat Defense のサイト間 VPN の管理


スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
エクスポート コンプライアンス	該当なし	Firepower Threat Defense	リーフのみ	Admin

手順

[デバイス (Devices)]>[VPN]>[サイト間 (Site To Site)]を選択して、Firepower Threat Defense のサイト間 VPN の設定と展開を管理します。次のオプションから選択します。

- 追加：新しい VPN トポロジを作成するには、 [VPN の追加 (Add VPN)]> [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)]をクリックして、[Firepower Threat Defense サイト間 VPN の設定 \(2 ページ\)](#) の手順を実行します。

(注) VPN トポロジは、リーフ ドメインでのみ作成できます。

- 編集：既存の VPN トポロジの設定を変更するには、編集アイコン () をクリックします。変更は設定とほとんど同じです。前述の手順を実行してください。

(注) トポロジタイプは、最初の保存後に編集することはできません。トポロジタイプを変更するには、トポロジを削除してから新しいものを作成します。

2 人のユーザが同じトポロジを同時に編集してはいけません。ただし、Web インターフェイスでは同時編集を防止していません。

- 削除：VPN の展開を削除するには、削除アイコン (🗑️) をクリックします。
 - VPN ステータスの表示：このステータスは Firepower の VPN にのみ適用されます。現時点では、Firepower Threat Defense VPN についてはステータスが表示されません。Firepower Threat Defense VPN のステータスを確認するには、[こちら](#) を参照してください。
 - 展開：[展開 (Deploy)] をクリックします ([設定変更の導入](#) を参照)。
- (注) 一部の VPN 設定は、展開時にのみ検証されます。展開が成功したことを確認してください。

Firepower Threat Defense サイト間 VPN の設定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
エクスポート コンプライアンス	該当なし	Firepower Threat Defense	リーフのみ	Admin

手順

- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [VPN] > [サイト間 (Site To Site)]。その後、[VPN の追加 (Add VPN)] > [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)]、またはリストされている VPN トポロジを編集します。を選択します。
- ステップ 2** 一意のトポロジ名を入力します。トポロジには、Firepower Threat Defense VPN であることとトポロジタイプを示す名前を付けることをお勧めします。
- ステップ 3** この VPN のネットワーク トポロジを選択します。
- ステップ 4** IKE ネゴシエーション中に使用する IKE バージョンとして、[IKEv1] または [IKEv2] のいずれかを選択します。
- デフォルトは [IKEv2] です。必要に応じて、いずれかまたは両方のオプションを選択します。トポロジ内のデバイスが IKEv2 をサポートしない場合は、[IKEv1] を選択します。
- ステップ 5** 必須: トポロジの各ノードの追加アイコン (⊕) をクリックして、この VPN 展開のためのエンドポイントを追加します。

[Firepower Threat Defense VPN エンドポイント オプション \(3 ページ\)](#) の説明に従って各エンドポイント フィールドを設定します。

- ポイントツーポイントの場合は、ノード A とノード B を設定します。
- ハブ アンド スポークの場合は、ハブ ノードとスポーク ノードを設定します。

- フル メッシュの場合は、複数のノードを設定します

- ステップ 6** (任意) 次の説明に従って、この展開のデフォルト以外の IKE オプションを指定します [Firepower Threat Defense VPN IKE オプション \(5 ページ\)](#)
- ステップ 7** (任意) 次の説明に従って、この展開のデフォルト以外の IPsec オプションを指定します [Firepower Threat Defense VPN IPsec オプション \(6 ページ\)](#)
- ステップ 8** (任意) [Firepower Threat Defense VPN 展開の詳細オプション \(8 ページ\)](#) の説明に従って、この展開のデフォルト以外の詳細オプションを指定します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
エンドポイントが構成に追加されます。

次のタスク

設定変更を展開します。 [設定変更の導入](#) を参照してください。



(注) 一部の VPN 設定は、展開時にのみ検証されます。展開が成功したことを確認してください。

Firepower Threat Defense VPN エンドポイント オプション

ナビゲーションパス

[デバイス (Devices)] > [VPN] > [サイト間 (Site To Site)]。その後、[VPN の追加 (Add VPN)] > [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)]、またはリストされている VPN トポロジを編集します。[エンドポイント (Endpoint)] タブを開きます。

フィールド

Device

展開するエンドポイント ノードを選択します。

- この Firepower Threat Defense で管理する Firepower Management Center デバイス。
- この Firepower Threat Defense で管理する Firepower Management Center ハイ アベイラビリティ コンテナ。
- [エクストラネット (Extranet)] デバイス。この Firepower Management Center の管理対象ではない任意のデバイス (シスコまたはサードパーティ) 。

デバイス名 (Device Name)

エクストラネットデバイスの場合のみ、このデバイスの名前を入力します。シスコでは、管理対象ではないデバイスとして識別できるような名前を付けることを推奨します。

インターフェイス (Interface)

エンドポイントとして管理対象デバイスを選択した場合は、その管理対象デバイスのインターフェイスを選択します。

[IPアドレス (IP Address)]

- Firepower Management Center の管理対象ではないデバイスを選択した場合は、エンドポイントの IP アドレスを指定します。
- エンドポイントとして管理対象デバイスを選択した場合は、ドロップダウンリストから 1 つの IPv4 アドレスまたは複数の IPv6 アドレスを選択します（これらはすでにこの管理対象デバイスのこのインターフェイスに割り当てられているアドレスです）。
- トポロジ内のすべてのエンドポイントは、同じ IP アドレッシング方式でなければなりません。IPv4 トンネルは IPv6 トラフィックを伝送でき、逆もまた同様です。保護ネットワークでは、トンネルするトラフィックで使用するアドレッシング方式が定義されます。
- 管理対象デバイスがハイ アベイラビリティ コンテナである場合は、インターフェイスのリストから選択します。

この IP はプライベートです (This IP is Private)

エンドポイントが、ネットワーク アドレス変換 (NAT) を備えたファイアウォールの背後に配置されている場合は、このチェックボックスをオンにします。

パブリック IP アドレス (Public IP address)

[この IP はプライベートです (This IP is Private)] チェックボックスがオンの場合は、ファイアウォールのパブリック IP アドレスを指定します。エンドポイントがレスポンドの場合は、この値を指定します。

接続タイプ (Connection Type)

許可されるネゴシエーションを、bidirectional、answer-only、または originate-only として指定します。接続タイプのサポートされる組み合わせは次のとおりです。

表 1: 接続タイプのサポートされる組み合わせ

リモートノード	中央ノード
Originate-Only	Answer-Only
Bi-Directional	Answer-Only
Bi-Directional	Bi-Directional

保護されたネットワーク (Protected Networks)

この VPN エンドポイントによって保護されたネットワークのリストを定義します。追加アイコン (+) をクリックして、使用可能なネットワークオブジェクトから選択するか、ネットワークオブジェクトインラインに追加します。 [ネットワークオブジェクトの作成](#)

を参照してください。アクセス コントロール リストがここで選択されたものから生成されます。

VPN エンドポイントは同じ IP アドレスを持つことはできません。また、VPN エンドポイントペアの保護されたネットワークは重複することはできません。エンドポイントについて保護されたネットワークのリストに 1 つ以上の IPv4 または IPv6 エントリが含まれている場合、他のエンドポイントの保護されたネットワークは、同じタイプ（つまり、IPv4 または IPv6）のエントリを少なくとも 1 つ持っていることが必要です。このようなエントリを持っていない場合、他のエンドポイントの IP アドレスが同じタイプであること、および保護されたネットワーク内でエントリが重複しないことが必要です。（IPv4 については /32 CIDR アドレスを使用し、IPv6 については /128 CIDR アドレス ブロックを使用します）。これらの両方のチェックに失敗すると、エンドポイントのペアは機能しません。

Firepower Threat Defense VPN IKE オプション

このトポロジに選択した IKE のバージョンの場合は、[IKEv1/IKEv2 設定 (IKEv1/IKEv2 Settings)] を指定します。



(注) このダイアログの設定は、トポロジ全体、すべてのトンネル、すべての管理対象デバイスに適用されます。

ナビゲーションパス

[デバイス (Devices)] > [VPN] > [サイト間 (Site To Site)]。その後、[VPN の追加 (Add VPN)] > [Firepower Threat Defense デバイス (Firepower Threat Defense Device)]、またはリストされている VPN トポロジを編集します。[IKE] タブを開きます。

フィールド

ポリシー

事前定義済みの IKEv1 または IKEv2 ポリシー オブジェクトを選択するか、または使用する新しいポリシー オブジェクトを作成します。詳細の参照先：[Firepower Threat Defense IKE ポリシー](#)

キータイプ

- [手動 (Manual)]：この VPN に使用される事前共有キーを手動で割り当てます。[キー (Key)] を指定して、[キーの確認 (Confirm Key)] に再入力します。
- [自動 (Automatic)]：管理センターが、この VPN に使用される事前共有キーを自動的に定義します。[キー長 (Key Length)] を指定します。キーの文字数は 1 ～ 27 文字です。

Firepower Threat Defense VPN IPsec オプション



(注) このダイアログの設定は、トポロジ全体、すべてのトンネル、すべての管理対象デバイスに適用されます。

クリプトマップタイプ (Crypto-Map Type)

クリプトマップには、IPsec Security Association (SA; セキュリティアソシエーション) を設定するために必要なすべてのコンポーネントが組み合わされています。2つのピアがSAを確立しようとする場合は、それぞれに少なくとも1つの互換クリプトマップエントリが必要です。クリプトマップエントリに定義されたプロポーザルは、そのクリプトマップのIPsecルールによって指定されたデータフローを保護するためのIPsecセキュリティネゴシエーションで使用されます。この展開のクリプトマップにスタティックまたはダイナミックを選択します。

- [スタティック (Static)]: スタティック暗号マップは、ポイントツーポイントまたは完全メッシュVPNトポロジで使用します。
- [ダイナミック (Dynamic)]: 実質的に、ダイナミック暗号マップによって、すべてのパラメータが設定されていない暗号マップエントリが作成されます。設定されていないパラメータは、IPsecネゴシエーションの結果として、リモートピアの要件に合うようにあとで動的に設定されます。

ダイナミッククリプトマップポリシーは、ハブアンドスポークVPN設定にのみ適用されます。ポイントツーポイントまたはフルメッシュVPNトポロジでは、スタティッククリプトマップポリシーのみを適用できます。2つのデバイスを使用してハブアンドスポークトポロジを作成することで、ポイントツーポイントトポロジでダイナミッククリプトマップの使用をエミュレートします。スポークのダイナミックIPアドレスを指定し、このトポロジでダイナミッククリプトマップを有効にします。

IKEv2 モード (IKEv2 Mode)

IPsec IKEv2 の場合のみ、カプセル化モードはトンネルにESP暗号化と認証を適用するために指定します。これにより、ESPが適用されるオリジナルのIPパケットの部分が決定されます。

- [トンネルモード (Tunnel mode)]: (デフォルト) カプセル化モードがトンネルモードに設定されます。トンネルモードでは、ESP暗号化と認証が元のIPパケット全体 (IPヘッダーとデータ) に適用されるため、最終的な送信元アドレスと宛先アドレスが非表示になり、新しいIPパケットでペイロードになります。

トンネルモードの大きな利点は、エンドシステムを変更しなくてもIPsecを利用できるということです。このモードでは、ルータなどのネットワークデバイスがIPsecのプロキシとして動作できます。つまり、ルータがホストに代わって暗号化を行います。送信元ルータがパケットを暗号化し、IPsecトンネルを使用して転送します。宛先ルータは元のIPデータグラムを復号化し、宛先システムに転送します。また、トラフィック分析から保護することもできます。トンネルモードを使用すると、攻撃者


にはトンネルのエンドポイントしかわからず、トンネリングされたパケットの本来の送信元と宛先はわかりません（これらがトンネルのエンドポイントと同じ場合でも同様）。

- [転送優先 (Transport preferred)] : ピアがサポートしていない場合、カプセル化モードは、トンネルモードにフォールバックするオプション付きの転送モードに設定されます。転送モードでは IP ペイロードだけが暗号化され、元の IP ヘッダーはそのまま使用されます。したがって、管理者は、VPN インターフェイスの IP アドレスと一致する保護されたネットワークを選択する必要があります。

このモードには、各パケットに数バイトしか追加されず、パブリックネットワーク上のデバイスに、パケットの最終的な送信元と宛先を認識できるという利点があります。転送モードでは、中間ネットワークでの特別な処理（たとえば QoS）を、IP ヘッダーの情報に基づいて実行できるようになります。ただし、レイヤ 4 ヘッダーが暗号化されるため、パケットの検査が制限されます。

- [転送必須 (Transport required)] : カプセル化モードは転送モードのみに設定され、トンネルモードにフォールバックすることはできません。転送モードをサポートしていない 1 つのエンドポイントがあるせいで、エンドポイントが転送モードを正常にネゴシエートできない場合、VPN 接続は行われません。

プロポーザル (Proposals)

選択した IKEv1 または IKEv2 メソッドのプロポーザルを指定するには、 をクリックします。利用可能な [IKEv1 IPsec プロポーザル (IKEv1 IPsec Proposals)] または [IKEv2 IPsec プロポーザル (IKEv2 IPsec Proposals)] オブジェクトから選択するか、または新しいプロポーザルを作成して選択します。詳細については、「[IKEv1 IPsec プロポーザル オブジェクトの設定](#)」および「[IKEv2 IPsec プロポーザル オブジェクトの設定](#)」を参照してください。

セキュリティ アソシエーション (SA) の強度適用の有効化 (Enable Security Association (SA) Strength Enforcement)

このオプションを有効にすると、子 IPsec SA で使用される暗号化アルゴリズムが、親 IKE SA よりも強くなることはありません（キー内のビット数の観点から）。

リバース ルート インジェクションを有効にする (Enable Reverse Route Injection)

リバース ルート インジェクション (RRI) により、スタティック ルートは、リモート トンネル エンドポイントで保護されているネットワークとホストのルーティング プロセスに自動的に挿入されます。

Perfect Forward Secrecy の有効化 (Enable Perfect Forward Secrecy)

暗号化された交換ごとに一意のセッション キーを生成および使用するために、Perfect Forward Secrecy (PFS) を使用するかどうかを指定します。固有のセッション キーを使用することで、後続の復号から交換が保護されます。また、交換全体が記録されていて、攻撃者がエンドポイントデバイスで使用されている事前共有キーや秘密キーを入手している場合であっても保護されます。このオプションを選択する場合は、[係数グループ (Modulus Group)] リストで、PFS セッション キーの生成時に使用する Diffie-Hellman キー導出アルゴリズムも選択します。

係数グループ (Modulus Group)

2つの IPsec ピア間の共有秘密キーを互いに送信することなく取得するために使用する Diffie-Hellman グループ。係数が大きいほどセキュリティが強化されますが、処理時間が長くなります。2つのピアに、一致する係数グループが設定されている必要があります。オプションの説明の詳細については、[使用する Diffie-Hellman 係数グループの決定](#)を参照してください。

ライフタイム(秒) (Lifetime (seconds))

セキュリティアソシエーションが期限切れになる前に存続できる秒数。デフォルトは 28,800 秒です。

ライフタイム (KB) (Lifetime (kbytes))

特定のセキュリティアソシエーションが期限切れになる前にそのセキュリティアソシエーションを使用して IPsec ピア間を通過できるトラフィック量 (KB 単位)。デフォルトは 4,608,000 KB です。無限のデータを指定することはできません。

ESPv3 設定 (ESPv3 Settings)**着信 ICMP のエラーメッセージを検証 (Validate incoming ICMP error messages)**

IPsec トンネルを介して受信され、プライベート ネットワーク上の内部ホストが宛先の ICMP エラーメッセージを検証するかどうかを選択します。

「フラグメント禁止」ポリシーを有効にする (Enable 'Do Not Fragment' Policy)

IP ヘッダーに Do-Not-Fragment (DF) ビットセットを持つ大きなパケットを IPsec サブシステムがどのように処理するかを定義します。

ポリシー

- [DF ビットのコピー (Copy DF bit)] : DF ビットを維持します。
- [DF ビットのクリア (Clear DF bit)] : DF ビットを無視します。
- [DF ビットの設定 (Set DF bit)] : DF ビットを設定して使用します。

トラフィック フロー機密保持 (TFC) パケットを有効にする (Enable Traffic Flow Confidentiality (TFC) Packets)

トンネルを通過するトラフィック プロファイルをマスクするダミーの TFC パケットを有効にします。[バースト (Burst)]、[ペイロードサイズ (Payload Size)]、および [タイムアウト (Timeout)]パラメータを使用して、指定した SA で不定期にランダムな長さのパケットを生成します。

Firepower Threat Defense VPN 展開の詳細オプション

次に、展開で指定できる詳細オプションについて説明します。



(注) このダイアログの設定は、トポロジ全体、すべてのトンネル、すべての管理対象デバイスに適用されます。

[詳細設定 (Advanced)]> [IKE]> [ISAKMP 設定 (ISAKMP Settings)]**IKE キープアライブ (IKE Keepalive)**

IKE キープアライブを有効または無効にします。または、[永続的に有効にする (EnableInfinite)] に設定して、デバイスがキープアライブ モニタリングを開始することがないように指定します。

しきい値 (Threshold)

IKE キープアライブの信頼間隔を指定します。これは、キープアライブ モニタリングを開始するまでにピアに許可されるアイドル時間 (秒) です。最小値およびデフォルトは 10 秒で、最大値は 3600 秒です。

再試行間隔 (Retry Interval)

IKE キープアライブの再試行から再試行までの待機秒数を指定します。デフォルトは 2 秒で、最大値は 10 秒です。

ピアに送信される ID: (Identity Sent to Peers:)

IKE ネゴシエーションでピアが自身の識別に使用する ID を選択します。

- autoOrDN (デフォルト) : 接続タイプによって IKE ネゴシエーションを判別します。事前共有キーの IP アドレスまたは証明書認証の証明書 DN (未サポート) を使用します。
- ipAddress : ISAKMP 識別情報を交換するホストの IP アドレスを使用します。
- ホスト名 (Hostname) : ISAKMP 識別情報を交換するホストの完全修飾ドメイン名を使用します。この名前は、ホスト名とドメイン名で構成されます。

アグレッシブ モードの有効化 (Enable Aggressive Mode)

ハブアンドスポーク VPN トポロジでのみ使用できます。IP アドレスが不明であり、デバイスで DNS 解決を使用できない可能性がある場合は、このネゴシエーション方式を選択してキー情報を交換します。ホスト名およびドメイン名に基づいてネゴシエーションが行われます。

[詳細設定 (Advanced)]> [IKE]> [IvE2 セキュリティ アソシエーション (SA) 設定 (IvE2 Security Association (SA) Settings)]

IKE v2 について、オープン SA の数を制限するさらに詳細なセッション制御を使用することができます。デフォルトでは、SA の数は制限されません。

クッキー チャレンジ (Cookie Challenge)

SA 開始パケットの応答としてピアデバイスにクッキー チャレンジを送信するかどうかを指定します。これは、サービス妨害 (DoS) 攻撃の防止に役立つことがあります。デフォルトでは、使用可能な SA の 50% がネゴシエーション中である場合にクッキー チャレンジを使用します。次のオプションのいずれか 1 つを選択します。

- カスタム : (Custom :)
- しない (Never) (デフォルト)
- 常に (Always)

着信クッキー チャレンジのしきい値 (Threshold to Challenge Incoming Cookies)

許可されるネゴシエーション中の SA の総数の割合。この設定を指定すると、以降の SA ネゴシエーションに対してクッキーチャレンジがトリガーされます。範囲は 0 ~ 100% です。

許可されるネゴシエーション中の SA の数 (Number of SAs Allowed in Negotiation)

一時点でネゴシエーション中にできる SA の最大数を制限します。クッキーチャレンジと共に使用する場合は、有効なクロスチェックが実行されるようにするため、クッキーチャレンジのしきい値をこの制限値よりも低くしてください。

許可される SA の最大数 (Maximum number of SAs Allowed)

許可される IKEv2 接続の数を制限します。デフォルトでは無制限です。

トンネルの切断時の通知を有効にする (Enable Notification on Tunnel Disconnect)

管理者は、SA で受信された着信パケットがその SA のトラフィック セレクタと一致しない場合のピアへの IKE 通知の送信を有効または無効にすることができます。デフォルトでは、[この通知を送信する (Sending this notification)] は無効になっています。

すべてのセッションが終了するまで、デバイスを再起動できません。

オンにすると、すべてのアクティブなセッションが自動的に終了してからシステムが再起動されます。デフォルトでは、無効になっています。

[詳細設定 (Advanced)] > [IPsec] > [IPsec 設定 (IPsec Settings)]**暗号化の前にフラグメンテーションを有効にする (Enable Fragmentation Before Encryption)**

このオプションは、IP フラグメンテーションをサポートしていない NAT デバイス間をトラフィックが通過できるようにします。このオプションを使用しても、IP フラグメンテーションをサポートしていない NAT デバイスの動作が妨げられることはありません。

パスの最大伝送ユニットのエイジング (Path Maximum Transmission Unit Aging)

オンにすると、PMTU (パス最大伝送ユニット) のエイジング、つまり、SA (セキュリティアソシエーション) の PMTU リセットまでの時間が有効になります。

値のリセット間隔 (Value Reset Interval)

SA (セキュリティアソシエーション) の PMTU 値が元の値にリセットされるまでの時間 (分) を入力します。有効範囲は 10 ~ 30 分です。デフォルトは無制限です。

[詳細設定 (Advanced)] > [トンネル (Tunnel)] > [トンネルオプション (Tunnel Options)]**ハブ経由のスポーク間接続を有効にする (Enable Spoke to Spoke Connectivity through Hub)****[詳細設定 (Advanced)] > [トンネル (Tunnel)] > [NAT 設定 (NAT Settings)]****キープアライブメッセージトラバーサル (Keepalive Messages Traversal)**

NAT キープアライブメッセージトラバーサルを有効にするかどうかを選択します。VPN 接続ハブとスポークとの間にデバイス (中間デバイス) が配置されている場合、キープアライブメッセージを転送するために NAT トラバーサルキープアライブを使用します。このデバイスでは、IPsec フローで NAT を実行します。このオプションを選択する場合は、セッションがアクティブであることを示すためにスポークと中間デバイス間でキープアライブ信号が送信される間隔 (秒) を設定します。値は、5 ~ 3600 秒の範囲で指定します。デフォルトは 20 秒です。

インターバル (Interval)

NAT キープアライブ間隔を 5 ~ 3600 秒の範囲で設定します。デフォルトは 20 秒です。

Firepower Threat Defense VPN のモニタリング

Firepower Threat Defense VPN アクティビティを次のようにモニタします。

- システム メッセージ

メッセージセンターは、モニタリングを開始する場所です。この機能を使用すると、システムの使用状況およびステータスについて継続的に生成されるメッセージを確認できます。メッセージセンターを開くには、メインメニューの [展開 (Deploy)] ボタンのすぐ右側にある [システム ステータス (System Status)] アイコンをクリックします。メッセージセンターの使用方法については、[システム メッセージ](#)を参照してください。

- VPN ヘルス イベント

これらのイベントは、[システム (System)] > [ヘルス (Health)] > [イベント (Events)] > [VPN ステータス (VPN Status)] で、その他のシステム イベントと共に表示されます。システムのヘルス イベントの表示に関する詳細については、[ヘルス モニタリング](#)を参照してください。

- システム ログ

現在、Firepower Management Center は Firepower Threat Defense VPN syslog を読み取る機能を備えていません。これらの syslog は、分析とアーカイブのためにサードパーティ サーバに転送される必要があります。syslog サーバの設定とシステム ログの表示の詳細については、[Syslog の設定](#)を参照してください。

- 統一された CLI コマンド、『*Command Reference for Firepower Threat Defense*』を参照してください。

Firepower Threat Defense デバイスで show、clear、および debug コマンドを使用して、VPN アクティビティのモニタおよびトラブルシューティングを行います。

モニタリングのガイドライン

- 300 以上の Firepower Threat Defense デバイスが Firepower Management Center で設定されている場合、イベント処理の問題が発生する可能性があります。
- 接続が切断している場合、Firepower Threat Defense デバイスと Firepower Management Center の間のイベントが失われている可能性があります。

